

## 第 61 回生命情報科学シンポジウム

開催日： 2026 年 3 月 14・15 日(土・日) 大会長： 帯津 良一 **ISLIS** 前会長

開催地： ビジョンセンター **有楽町** (注意：似た場所名の多数)

両日朝～303 号, 両日夕刻 懇親会 301 号

主催： **国際生命情報科学会 (ISLIS, イスリス)**

共催： **科学平和文化財団 (SPC-F, スプク)**, **国際総合研究機構 (愛理 IRI)**

### <理事長講演>

ホリスティック医学・不思議の科学の拠点,  
**国際生命情報科学会 (ISLIS)・国際総合研究機構 (愛理 IRI)・**  
世界一の「潜在能力科学研究所」・「いやしのビル」へ  
人財と連携の結集を

山本 幹男 博士(医学), 博士(工学)

( Mikio YAMAMOTO, Ph.D., Ph.D.)

**国際生命情報科学会 (ISLIS) 理事長・編集委員長,**

**科学平和文化財団 (SPC-F) 理事長, 国際総合研究機構 (愛理 IRI) 理事長,**  
「潜在能力科学研究所」創立責任者, 「いやしのビル」企画委員長 (日本, 千葉)



要旨： **国際生命情報科学会 (ISLIS)** は 2025 年に **創立 30 周年記念年** を下記 **記念行事** で祝った。「**ホリスティック (全人的) 医学と不思議の科学**」を主テーマとする「**生命情報科学シンポジウム**」を 2025 年にも **ISLIS** が下記 2 回主催した。第 59 回は **河野貴美子** 会長が大会長で日本橋にて 3 月 29-30 日(土-日)に延べ約 50 名の参加で, 第 60 回は **帯津良一** 前会長が大会長で, 庭園付の大邸宅 **伊豆高原「華水月」** を借切って, 第 17 回の合宿形式にて 8 月 8-11 日(金-月)に延 90 名超の参加で, いずれも大変有意義に開催された。

2026 年にも, 上記主テーマにて同シンポジウムを 2 回主催予定である。第 61 回は 3 月 14-15 日(土-日)に **ビジョンセンター 有楽町** にて **帯津良一** 前会長が大会長で, 第 62 回は 9 月 4-7 日(金-月)に第 18 回の合宿形式にて地方(未定)にて 大会長募集中で, 開催予定で, 企画・演題・参加者を募集中。これらに多くの方の講演・発表・セミナー・分科会・ミニシンポ・ワークショップ・実技指導披露等の応募と参加を望む。

これらの開催は, 共催の **科学平和文化財団 (SPC-F) 国際総合研究機構 (愛理 IRI)** の助成金とスタッフの全面的協力により可能となっており **ISLIS** として深く感謝する。今後のイベント日程もホームページに掲載。

2025 年 7 月から **討論の場** として毎月「**Sympo Café**」を **SPC-F** 主催 **ISLIS** 共催にて千葉市稲毛にて開催中。

**ISLIS** は, その兄弟組織でこの分野の幾多の研究成果を挙げてきた **国際総合研究機構 (NPO-IRI) / 科学平和文化財団 (SPC-F)・国際総合研究機構 (愛理 IRI)** と共に, 世界一の **愛理 IRI-「潜在能力科学研究所」** を創設し, 大型「**いやしのビル**」を建設し, 「**ホリスティック (全人的) 医学・不思議の科学**」を含むこの分野の **世界一の拠点** に育てたい。企画, 構想, 連携やこの 1 年程で **100 名の人財** を公募中で, 良い研究者や多方面の人材の推薦等で皆様のご協力を得たい。このために現本部および総武線「**稲毛**」駅近辺に数カ所のスペースを既に借増し, 小型ビルの建築確認済証も発行され, 超大型ビルを含む大型ビル 3 棟の企画設計もまとまった。こころが綺麗で有能な各種人財の結集を望んでおり, 自薦・他薦を期待している。また, 大学等や国立系研究機関等との連携を模索しつつある。

**ISLIS** の設立趣意は, 物質中心の科学技術から, ころや精神を含んだ 21 世紀の科学技術への **パラダイム・シフト (枠組革新)** を通じ, 真理の追究と共に, 人間の「**潜在能力**」の開花により, 健康, 福祉, 教育と社会および個人の幸福や心の豊かさを大きく増進させ, 自然と調和した平和な世界創りに寄与する事である。

**ISLIS** は 1995 年の創立来 30 年半, 現在の科学知識の延長で説明が出来そうも無い不思議なころや精神を含んだ **スピリチュアル・ヒーリング, 気功, 潜在能力, 超心理現象** などの存在の科学的実証とその原理の解明を追求して来た。この間に **生命情報科学シンポジウム** を, 海外での開催や 17 回の合宿形式を含め 60 回主催し, 英文と和訳付の国際学会誌 **Journal of International Society of Life Information Science (J.Intl.Soc.Life Info.Sci. or Journal of ISLIS)** を年 2 号刊行し, 総計 7, 000 頁以上の学術論文と発表を掲載してきた。

この間に, 不思議現象の存在の科学的実証には多くの成果を挙げた。しかし, その原理の解明は世界的にもほとんど進んでいない。今後共, これに大いに挑戦したい。

本学会は現在, 世界の 11 カ所に情報センターを, 15 カ国以上に会員を, 擁している。

キーワード： **ホリスティック医学, 国際生命情報科学会, ISLIS, イスリス, 生命情報科学, 潜在能力科学, 国際総合研究機構, 愛理 IRI, アイリ, 科学平和文化財団, SPC-F, 科学, 精神, 脳, 心身, 代替医療, CAM, 統合医療, IM, 予防医学, 未病, 精神神経免疫, スピリチュアル, ヒーリング, 気功, ヨーガ, 瞑想, 潜在能力, 催眠, 心, 不思議, パラダイムシフト, 世界像, 世界観, 超常現象, 超心理, 超能力, UFO, UMA, 理想主義, 現実主義, 平和, 幸福**

<大会長講演>

## 地球の自然治癒力の回復こそ焦眉の急

帯津 良一 医学博士,医師

第 61 回生命情報科学シンポジウム 大会長  
国際生命情報科学会 (ISLIS) 前会長  
日本ホリスティック医学協会 名誉会長  
帯津三敬病院 名誉院長 (日本、埼玉)



**要旨:** ここ数日間の大雨による全国各地での水害には目を見張るものがある。その上に、この夏の猛暑である。さらには、一向に衰えを見せない世界各地での紛争の数々。いずれも地球の自然治癒力の凋落ぶりを物語っている。今回は、生と死の統合を果たした人々が、それによって身につけた、優しさとも言われぬダイナミズムによって地球の自然治癒力の回復に貢献することができることを報告した。

一方、自然界は場の階層から成り、そこには上の階層は下の階層を超えて含むという原理が働いているという。つまり、小は素粒子から大は虚空までが場の階層を成し、そこには強力な関係性が存在すると言う。となれば、まずは隗より始めよ！一人ひとりが、内なる生命場のエネルギーを高め、さらには自分が身を置いている場のエネルギーを高めることによって、地球の自然治癒力の向上をもたらすことになるのである。そのためには各人が各様に、場に働きかける養生法を身につけることである。たとえば、

四民とも家業をよく勤めるが養生の道 (『養生訓』)  
酒は天の美禄なり (『養生訓』)  
道を行い、善を楽しむ (『養生訓』)  
生きながらにして虚空と一体になる (『夜船閑話』) 新呼吸法「時空」  
養生の訣も、亦一箇の敬に帰す (『言志四録』)

その他にも太極拳、講演、恋心などもある。いずれにしても焦眉の急である。一刻も早く、身を動かし、気をめぐらそうではないか。

**キーワード:** 地球の自然治癒力・場の階層・家業・酒・道・新呼吸法「時空」・太極拳・恋心・敬・焦眉の急

帯津 良一 医療法人直心会 帯津三敬病院 名誉理事長 〒350-0021 埼玉県川越市大字大中居 545 番 Tel: 049-235-1981

<会長講演>

## 音と脳,そして脳波

河野 貴美子  
国際生命情報科学会 (ISLIS) 会長  
国際総合研究機構 (IRI) (日本、千葉)



**要旨:** 様々な音の情報を脳はどのように処理しているのだろうか、通常、言語は左脳の機能、音楽は右脳と言われているが、そもそも音楽とは脳にとってどのような存在なのか、心地よい音とは、何なのか。今まで様々な種類の音刺激と脳の反応を脳波により調べてきた。脳波は一般的に心地よければα波というように思われているが、その出現量など詳しく調べるにより単にリラックスや集中のみでない様々な情報を得ることができる。またリラクゼーションを重視する側からは少ない方がよいようにいわれるβ波も詳しく解析することにより、被験者の細かい変化情報を知ることができる。さらには誘発脳波による検討など、音をめぐる様々な計測結果から脳にとって心地よさとは？音楽とは？など探してみたい。

**キーワード:** α波, θ波, β波, 高周波, リラックス, 右脳, 左脳

著者連絡先: 263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2 ユウキビル 40A 電話 043-255-5481 電子メール: kawano@a-iri.org

## <常務理事講演>

# ピラミッドパワーの科学的研究 (2007年10月~2026年3月) (Scientific Research on Pyramid Power: Studies from October 2007 to March 2026)

高木 治, 河野 貴美子, 山本 幹男

国際総合研究機構(IRI), 科学平和文化財団(SPC-F) (日本, 千葉)

**要旨:** 我々は2007年10月以来,ピラミッド型構造物(pyramidal structure: PS)の未知なるパワー(ピラミッドパワー)の存在を実証するため,厳密に科学的な実験を続けている.実験では,バイオセンサ(キュウリ切片)をPS頂点と頂点から8m離れた較正基準点(コントロール)に30分間置き,その後バイオセンサを密閉容器に移し,48時間程度保管した後,容器内の揮発成分(ガス濃度)を測定した.我々が行っているピラミッドパワーの実験は,主に次の2種類である.I)「ピラミッドパワー実験(PP実験)」: PP実験は,PS自体が潜在的に持っている,いわゆるピラミッドパワーを検出する実験である.II)「瞑想実験」: 瞑想実験は被験者がPS内に入り瞑想(ヘミシング)を行う実験であるが,瞑想中との比較のため,瞑想前と瞑想後の時間帯でも,PS頂点と較正基準点にバイオセンサを置いて実験を行っている.PP実験によって実証した内容は,主に次の5点である.1) PSのピラミッドパワーの存在を明らかにした(1%有意で実証: 夏期データ).2) PSのピラミッドパワーが,PS頂点に2段に重ねて置いたバイオセンサに対して,下段と上段で異なることを明らかにした(ピラミッド効果の大きさを示すサイ指数 $\Psi$ が,下段のバイオセンサに対するサイ指数 $\Psi$ は-3.01でマイナスの値,上段に対するサイ指数 $\Psi$ は5.52でプラスの値となり,下段と上段で有意差を得た, $p=4.0 \times 10^{-7}$ ).3) PSの潜在力の詳細な解析の結果,バイオセンサ間の絡み合い(Bio-Entanglement)と考えられる現象があることを発見した.4) PS頂点のピラミッドパワーによるバイオセンサに対するピラミッド効果は,季節に依存せず一定であること.また,Bio-Entanglementによるピラミッド効果は,季節依存性を示すことを明らかにした.5) PS頂点のピラミッドパワーが,バイオセンサの特性であるガス濃度の概日リズムの位相に影響を与えることを明らかにした.瞑想実験によって実証した内容は,主に次の4点である.1)PS内で被験者が瞑想中,及び瞑想後を比較した結果,バイオセンサに対するピラミッド効果が異なった( $p=3.13 \times 10^{-10}$ ).2)PS内で被験者が瞑想した影響は,約20日間程度残り,瞑想後20日以降は,ピラミッド効果が検出できなくなった.3)PSの有無,瞑想の有無の組合せは4通りあり,それぞれ実験を行った.その結果,ピラミッド効果の発生要件が明らかになり,PS内で被験者が瞑想した時にのみ,ピラミッド効果が有意に検出された.4)瞑想前実験は,被験者が実験室から6km以上離れた自宅に居る時に行った.瞑想前日の実験と,瞑想の数時間前の実験を比較した結果,瞑想前日のピラミッド効果は誤差の範囲でゼロとなったが,瞑想数時間前のピラミッド効果は有意な値となった.本発表では,これまでの実験結果の全体を説明するとともに,最近の実験データを追加した解析結果とを比較し,検討する予定である.ピラミッドパワーに関する研究は,未だアカデミズムの世界では異端と見做されることが多い中,我々の実験結果は,この分野において世界初の研究成果である.今後この成果が一般に広く認められ,科学における新たな研究分野となり,幅広い応用の可能性が期待される.

**キーワード:** ピラミッド, 潜在力, 瞑想, ヘミシング, バイオセンサ, キュウリ, ガス, サイ指数, Bio-Entanglement

代表著者連絡先: 〒263-0051 千葉市稲毛区園生町1108-2 ユウキビル4FA 電話 043-255-5482 電子メール: takagi@a-iri.org

## <研究発表>

### 潜在的なピラミッドパワーに対する太陽活動の影響 (The Influence of Solar Activity on Potential Pyramid Power)

高木 治, 河野 貴美子, 山本 幹男

国際総合研究機構(IRI), 科学平和文化財団(SPC-F) (日本, 千葉)

**要旨:** 我々はピラミッド型構造物 (pyramidal structure: PS) の未知なるパワー (ピラミッドパワー) の研究を,2007年10月から続けている.そしてピラミッドパワーを検出するため,バイオセンサ (食用キュウリ切片) を使用した厳密に科学的な実験を行い,ピラミッドパワーの存在を実証した.これまで,バイオセンサに対する次の2種類のピラミッド効果が明らかとなった.(i) PSの潜在力によるピラミッド効果. (ii) PS内部での被験者の瞑想によって影響されたピラミッド効果.PSの潜在力に

よるピラミッド効果の解析から、バイオセンサ間の ”絡み合い” 的な現象に着目し、”Bio-Entanglement”と名付けた。これにより、それまでピラミッド効果の大きさを示す指標(サイ指数： $\Psi$ )が、実はPSの潜在力によるピラミッド効果(サイプライム： $\Psi'$ )とBio-Entanglementによるピラミッド効果(サイダブルプライム： $\Psi''$ )が入り混じったものであることが分かった。そして、PS頂点の潜在力は、上下2段に置いた試料に対する効果( $\Psi'$ layer1,  $\Psi'$ layer2)が、年間を通じて  $\Psi'$ layer1 <  $\Psi'$ layer2 となるようなパワーであることが判明した。また、Bio-Entanglementによって、 $\Psi''$ layer1 と  $\Psi''$ layer2 は、値がほぼ一致しながら、季節変化することが判明した ( $\Psi''$ (冬) <  $\Psi''$ (夏))。本発表では、PSの潜在力による3種類のピラミッド効果( $\Psi$ ,  $\Psi'$ ,  $\Psi''$ )の中で、特にサイ指数 $\Psi$ に関して様々な太陽活動との関係を解析する予定である。具体的には、太陽黒点数とピラミッド効果の相関、太陽風のレベルとピラミッド効果の相関等を報告する予定である。

キーワード：ピラミッド, バイオセンサ, キュウリ, Bio-Entanglement, 太陽黒点, 太陽風

代表著者連絡先：〒263-0051 千葉県市稲毛区園生町 1108-2 ユウキビル 4FA 電話 043-255-5482 電子メール：takagi@a-iri.org

#### 参考文献

[1] Takagi, O., Sakamoto, M., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2021) Potential Power of the Pyramidal Structure IV: Discovery of Entanglement Due to Pyramid Effects. Natural Science, 13, 258-272.

<https://doi.org/10.4236/ns.2021.137022>

[2] Takagi, O., Sakamoto, M., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2021) Potential Power of the Pyramidal Structure V: Seasonal Changes in the Periodicity of Diurnal Variation of Biosensors Caused by Entanglement Due to Pyramid Effects. Natural Science, 13, 523-536.

<https://doi.org/10.4236/ns.2021.1312046>

#### <研究発表> 「こころ」の起源について考えるシリーズ

### 「生命の起源」を汎心論的に捉えなおしてみる

岡田 真一 博士(理学)、臨床心理士

科学平和文化財団 国際総合研究機構(愛理IRI)(日本,千葉)



**要旨：**生命進化の途上、突如として創発的に「こころ」が生じたと考えるよりも、生命の起源以前の物質進化の時点で、すでに「こころ」または「こころの基となる性質」が内包されていたとみる方がより自然ではないだろうか(現況の汎心論の主たる論旨)。一方、A.N.Whiteheadらが考えたように、有機体(素粒子、原子から生命、恒星等に至るまで“自立能動”で出現した事象)には二つの相反する志向性(いわば「同一性回帰」と「多様性展開」の二志向性)が存在するとし、この二志向性を満たしながら物質は進化したと考えられる。換言すれば、この二志向性こそが「こころ」の源流であるとも考えうる。であれば生命の起源はどのように捉えられるだろうか? 仮に R.Sheldrake が唱える形態共鳴仮説が事実とすると、自身とほぼ同じ有機体を生み出す機能を持ち、「生み出す」という繰り返しによりその形態・機能安定を図った瞬間が「生命の起源」と捉えることが可能であろう。

キーワード：生命の起源, 汎心論, 有機体が内包する2つの志向性, 形態共鳴仮説

連絡先：Tel:090-6521-7951 E-mail：makuharihamada@gmail.com

#### <研究発表> 擬態を考えるシリーズ

### 共時性・集合的無意識概念の拡張からの擬態理解へのアプローチ

岡田 真一 博士(理学)、臨床心理士

科学平和文化財団 国際総合研究機構(愛理IRI)(日本,千葉)

**要旨：**C.G. Jungのいう集合的無意識中の内容、つまり元型、シンボル、イメージ、モチーフ等はいったいどこに蓄えられているのだろうか? R. Sheldrakeは、「形態形成場」に保持されると推測する。その「場」と生命・環境等との関係は不明だが、遺伝子以外での事象の記憶、伝播媒体として今後の検証が待たれる。一方、集合的無意識のより深層へ目を向けると、人類、哺乳類…と生物の各段階の共通の無意識領域を超え、奥底の物質領域(唯識論に於ける阿頼耶識以深)まで連続的に「こころ」概念を拡張できる可能性がある。このことから、個体の集合的無意識深層に向かうほど、より広い周辺の生命、環境に伴って存在する類似の「こころ」の内容と共鳴しうる、つまり規

模として個別の生命体を囲む環境全体、さらには広域生命圏に至るまで、現実の生態系と表裏一体で息づいている「こころ」の内容と共鳴しうるのではないか？では、生物の擬態進化はなぜ可能だったのか？生物の集合的無意識内の捕食関係等で活性化した心的内容と環境・生態系内の対応する心的内容の間で繰り返し共鳴・分有・投影が起き、それが共時性の連鎖を惹起し、モノ・コト（形態）としての擬態現出に關係する遺伝子片取り込み等に至った可能性があるのではないだろうか。  
キーワード：集合的無意識、形態形成場、生物の擬態、生態系のこころ、共時性

連絡先：Tel:090-6521-7951 E-mail：makuharihamada@gmail.com

#### <研究発表>

### CTMU の論理構造とその限界 –CTMU・ゲーデル・信仰的跳躍

谷口 隆一郎 博士 (哲学)

聖学院大学総合研究所 教授 (日本,埼玉)



**要旨：**CTMU は、宇宙を自己記述的構文言語 (Self-Configuring Self-Processing Language: SCSPL) として理解する理論である。中心的概念である Telic Principle は、宇宙が自己更新を行う際に矛盾を回避し、一貫性を最大化する方向で自己選択を行うことを保証する。この原理に基づけば、宇宙には外部が存在せず、すべては内在的な自己記述のプロセスとして完結する。比喩的に言えば、宇宙全体は「自らを絶えず書き換え続ける巨大なプログラム」に類似しており、外部からの命令を必要とせず、自律的に更新を繰り返す。このような閉じた一貫性は論理的にはきわめて洗練されているが、その枠組みは悲惨や不条理の出来事を「バグ」や「入力エラー」として処理してしまう危険を孕む。すなわち、出来事の切実さそのものが体系内部で中和され、倫理的な問いとしての迫力を失う可能性がある。本稿は、この緊張関係を批判的に検討し、自己完結的宇宙論と倫理的応答可能性との接点を探るものである..

#### <研究発表>

### 余白と構文 –CTMU とシナージック理論を媒介とした信と構造の統合哲学の試論

谷口 隆一郎 博士 (哲学)

聖学院大学総合研究所 教授 (日本,埼玉)

**要旨：**本稿は、クリストファー・ランガンの Cognitive-Theoretic Model of the Universe (CTMU) と、ハコボ・グリーンバーグ＝シルベルバウムのシナージック理論 (Syntergic Theory) を比較し、両者を媒介する新たな視座として「余白」の概念を導入することを目的とする。CTMU は宇宙を自己記述的構文として閉じるモデルを提示するが、その枠組みにおいて悲惨や不条理は「人間の選択」あるいは「構文的必然」として回収され、倫理的契機が弱まる傾向をもつ。これに対してシナージック理論は、脳の神経場と非局在的格子との相互作用によって経験が生成されるとし、局所的な「シナジー (synergy)」を経験統合の度合いを示す指標として位置づける。本稿は、シナジーを CTMU における Telic 整合の局所的指標として読み替える一方で、悲惨や不条理を単に体系内に回収せず保持する「余白」の概念を導入する。そのことによって、倫理的応答の契機を開示し、「信と構造の統合哲学」としての可能性を展望するものである。

#### <一般発表>

### 鹿との平和的共生方法 (2026 年版)

橋爪 秀一

Idea-Creating Lab (日本, 横浜)



**要旨：**縄文時代から、日本人は鹿に対して可愛らしい、高貴である等の好印象を持っており、神使或は神獣として崇めてきた。しかし、近年は年間約 60 万頭の鹿が害獣として駆除されている。

今回の発表は、日本、ニュージーランド、台湾、モンゴル、スコットランド、中国及びドイツにおける鹿との付き合い方について報告し、鹿との優れた共生方法について考察したい。日本では、共生方法

に関して、多々試行はされているが、鹿を柵により締め出す以外の方法では、優れた効果が認められていないのが現状である。

我々は、銃或いはワナのような過激な手段での共生ではなく、平和的な鹿との共生方法を求めている。最近、六甲山のイノシシには毛繕いに関してルールが存在し、そのルールを守っていることが明らかになった。これは、イノシシ社会にはルールが存在し、イノシシはそれを学習する能力があることを示している。また、アメリカのグリズリーは、電気マット或いは電気柵でショックを受けるとその後の出現頻度が減少するとの報告がある。

そこで、我々はこのような動物の学習能力を利用した「教育による共生方法」を確立したいと考えている。即ち、人里に下りてきた動物を捕獲し、電気マットなどで恐怖を体験させ「人里に近づいてはならないこと」を教え込んだ後に山に放つことにより、その教え込んだ動物は人里に下りてこないようになり、仲間にも人里は怖い所だと伝えてくれることが期待できると考える。更に、将来的には、この平和的な動物との共生方法を、自然、動物、植物、他国など様々な対象との共生に如何に生かすことができるか模索していきたい。

**キーワード：鹿, 害獣, ルール, 学習能力, 共生**

連絡先：橋爪秀一, E-mail: hashizume.shu@nifty.com

### <一般発表>

## アートセラピーで自分の潜在意識を知ることが 社会の健全性、平和へと連なる

黒須 美枝

アートセラピストアカデミー有限会社 代表取締役 (日本, 埼玉)



**要旨：**幸せ観を感じられない人達が激増している。外側の情報に一喜一憂し、自分とはどういう人間なのかを基本的に知らないことで、人生を自分でコントロールできない。様々な局面で不確実性が高まっている今、アートセラピーで描かれた画は自分を知るデータであり、自分の潜在意識に気づくことで、自分が生まれた意味を知ることが重要である。一例として「怒り」の画を描いてもらうと、各自の今生で超えるべきテーマがあらわれる。普段から自分が情報発信(=表現)していること、特に「無意識に表現していること」に「気付かされて」、そのことに「意識的になる」ことで人生に(→よい方向への)変化が起こった例を紹介する。自分の人生のテーマを深く知ることが、社会との共生を健全にし、結果社会の健全性へと連動する可能性がある。宗教でもなく心理学でもないアートと言う表現をアートセラピストと共有することで新たな自己発見に繋がる。

**キーワード：**アートセラピー, 今生で超えるべきテーマ, 無意識, 怒り, 不確実性, 心のデータ, 情報, 健全性, コントロール, 自己発見

連絡先：Tel: 048-647-3080090-6521-7951 E-mail: cross@arththerapist-academy.com

### <一般発表>

## 鼓膜穿孔時の低侵襲による画期的治療法ほか カルマを焼く中医学的エネルギー治療法のご紹介

朝日 舞

一般社団法人 健康科学研究所 (日本, 千葉)



**要旨：**近年様々な治療法や施術法が出てきました。現代のストレス社会では様々な原因により鼓膜に孔があき、聴力低下で困っている人は全国で100万人以上と推測されています。僅か20分で出来る低侵襲の鼓膜再生療法を、また難病の原因ともなる体内に潜む負のエネルギーを可視化できる、火療法カルマ焼®を併せてご紹介致します。

**キーワード：**鼓膜穿孔, 低侵襲, エネルギー, 可視化, 火療法, カルマ焼

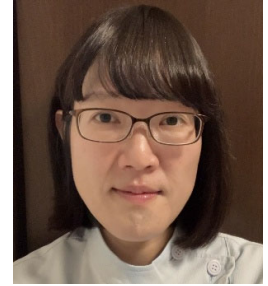
連絡先：asahimai318@gmail.com

<一般発表>

## 陰陽五行から紐解く

野村 明子

有限会社日吉堂 (日本, 京都)、鍼灸指圧マッサージ師



**要旨：**中国伝統医学では陰陽五行学説を基本的な考え方とします。これは、万物の生成、宇宙論、自然論から始まり、人間の生体、感情、生命観、まで応用されています。単なる身体機能の考え方で終わらず、これを施療方法、養生法、自分自身について、など幅広く日常で実践していくことで、現代に生きる私達にも新しい気づきを与えてくれます。鍼灸指圧マッサージ師として、東洋医学の真髄を理解したいという自分への学びとして、改めて陰陽五行について考えます。

**キーワード：**陰陽, 五行, 養生, 生理活動, 気

連絡先：tulip.akn@icloud.com

<ミニシンポジウム>

## 「地球幸福憲章」

ファシリテーター 山本 幹男 博士(医学)・博士(工学)

「地球幸福憲章」起草者代表 (日本, 千葉)

**要旨：**「地球幸福憲章」は、場当たりの政策でなく、無宗教の人も宗教を信じる人も含めて、皆の数千年間の指針となるべき、地球上が丸ごと皆が平和で幸福になるべき憲章を目指して、2012年に山本幹男が草案を提起し、2年掛で数十人が参加しての50回程の議論を経て起草された。その後、ちばてつや 漫画家(2025 年に文化勲章受章) や 故 日野原重明 医師等 高名な方々に「提唱者」や「賛同者」となって頂き、2014年9月9日に神田の日本学士会館にて創立総会を開催し、記者会見し発表した。その後、人材や資金不足等で、この普及推進活動が出来ていなかった。

しかし、戦争が多発している今こそ、本憲章が必要で 平和への関心が高まっているので、これを再開しなければならないので、是非とも多くの方々に、この運動にご参加頂きたい。

**キーワード：**地球幸福憲章, 幸福文明, 精神文明, 生き甲斐, 平和, 戦争, 幸福, 自由, 平等, 博愛, 民主, 環境

連絡先：mikio-yamamoto@iri-g.org Fax 043-255-9143 090-9232-9542

コメンテーター：募集中

全世界の、ヒューマニスト、ロマンチスト、アイディアリスト (理想主義者)、

エコロジスト、リベラリスト、パシフィスト(平和主義者)

全員集合 「地球幸福憲章 net」へ

2014年9月9日発表版

起草者代表 山本 幹男 博士(医学)・博士(工学)

## 地球幸福憲章

The Earth Happiness Charter (TEHC) テーク

— 人類はきょうだい, 生物は家族, 地球・宇宙は家 —

-Humanity as Brothers and Sisters, All Living Creatures as One Family, the Earth and Universe as Home-

今日までの目覚ましい科学技術の進歩と資本主義経済システムにより、今まさに物質文明が開花している。それは、人々の生活を快適にする一方で、核兵器に象徴されるように人類絶滅の危機さえもたらした。更に、地球規模の自然破壊や貧富格差を引き起こし、資源や覇権をめぐる紛争も絶えない。本憲章は、繁栄の陰に生じた弊害や危機を乗り越え、人類と生物や地球・宇宙の永続的で輝かしい未来を創るために、物質文明と精神文明を統合し、「人類は兄弟, 生物は家族, 地球・宇宙は家」との根本理念に基づく「地球幸福文明」への転換をここに提唱する。

目指す「地球幸福文明」は、今日までの文明の貴重な概念である、自由・民主・平等・博愛・連帯・参画・福祉・健康・平和・自然保護・共生を成熟させ現実化する。また、個性が生かされ、生き甲斐と

愛・喜びに満ち、生き生きと生きられる、皆が社会・生物・自然と共に幸福に生きる事を主眼とした文明である。

人種、民族、宗教、国家の垣根を超え、世界の人々による連帯と多様な価値観への理解に基づく、あらゆる外交、経済、文化的努力により平和を実現する。核兵器・生物化学兵器などの速やかな全面禁止、通常兵器の段階的削減、そして廃棄を目指す。経済システムは、弱肉強食・収奪と浪費型から、民主的で公正なシステムに転換する。福祉・健康・文化・環境・共生・平和・精神性を重視した経済活動を促進する。

この文明の実現のためには、一人一人が、全ては全体と相互に繋がり合う、掛け替えのない存在である事に気付き、先人の叡智に学び、潜在能力を開き、他への思いやりの心を深めると共に、分かち合う行為が必要である。

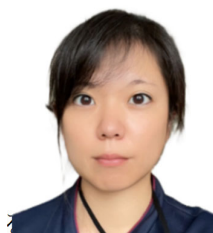
本憲章に賛同する世界の人々による「地球幸福憲章ネットワーク」とその「世界本部」をここに創設し、これを皆の力で発展させることにより、本憲章と「地球幸福文明」の実現をめざす。このために、世界の多くの人々・団体と叡智の本「地球幸福憲章ネットワーク」への結集を求める。

## <一般講演>

### 抜け毛悩みからの脱却 和合神経癒学の考え方とともに

芳賀 ゆかり 理学療法士

科学平和文化財団 国際総合研究機構(愛理 IRI) (日本, 千葉)



**要旨：**本発表は、長年の悩みであった「抜け毛」に対し、劇的な改善をみたプロセスである。この改善に至った経緯を、現在私が学んでいる和合神経癒学という東洋思想の視点から紐解いてみたいと思う。かつての私は、毛量や頭皮の状態という「見える結果(陽)」に執着し、シャンプーや薬などの「具体的手段(陽)」だけに頼る一方的な解決を模索していたが、結果はどれも失敗に終わった。転換点は、どのやり方も上手くいかなかった結果「髪が抜けてもなんとかなる」という自分の価値観の変化であった。「髪があった方がいい(陽)」と「髪がなくても何とかなる(陰)」という真逆の価値観が太極瑜伽したことで自分の価値観で必要以上に苦しまなくてもよくなったこと。また、アイテム(陽)というものと、方法・仕組み(陰)にも太極瑜伽が起きたと考える。「こうでなくては」という自分の固まった価値観を一度横に置いておき、自分自身を整えるプロセスに専念した結果、2026年には「改善」という陽の結果へと自然に繋がった。本事例は、相反する要素を統合し「中庸(最適化)」に至る重要性の実証記録である。

**キーワード：**陰と陽、陰主陽従、太極瑜伽、中庸、和合神経癒学、価値観

芳賀ゆかり：yukari-haga@iri-g.org

## <一般講演>

### 技芸の起源／言葉の物語～言葉と映像による表現～

結

フリーランス／国際生命情報科学会 (日本, 千葉)



**要旨：**いまこの時代を「良く」生きるのは、それ自体が高度な技芸と言えないだろうか。今の社会システムはあまりにも複雑化したために、個々の人間がその基層となっている仕組みを知ることが非常に難しくなっている。AIが産声をあげたこれからの時代ではなおさらである。

「人間」の技芸の最も大きな土台となっているのが「言葉」である。私は奄美の古い芸能の伝承に関わる中で、言葉や技芸がこの数十年という短い時間の中でも大きく変化していることに気づかされてきた。このまま進むだけでは「人間の技芸」はAIによって代替されていくだろう。(そのこと自体が単に悪いとは言えないが自覚的である必要はある)

もう一度「言葉」を知り、使いこなす、生きる技芸としていくためには、その起源から探り、学び、さらには言葉そのものを進化させる必要があるだろう。これまでに ISLIS や SPC-F のイベントで何度か私がイメージする「言葉の起源から IT までの大きな流れ」をかいつまんでお話ししてきたが、科学的な発表でもない内容を今までのテキストベースの講演で伝えるのに限界を感じてきた。

そこで、今回は新しい試みとして言葉だけでなく「映像表現」を取り入れた講演とし「言葉と技芸」

についてのイメージを深めてみたい。(時間的に短いプロト版となる)

---

連絡先: yoshifumi-furuhashi@iri-g.org

## <ワークショップ>

### ハイパーソニックサウンドと身体を知り 今後の展望を考える

佐藤 克巳

佐藤整体院長 (日本, 千葉)



**要旨:** 本ワークショップでは、可聴域を超える高周波成分を含む音が人体に及ぼす影響について、体験と身体観察の両面から検討する。

ハイパーソニックエフェクトとは、20kHz 以上の可聴域外高周波音が、聴覚として認識されないにもかかわらず、生体に影響を及ぼす現象であり、大橋力によって提唱・研究されてきた。大橋は、インドネシア・ガムラン音楽や自然音の研究を通じて、高周波成分が脳波変化や脳血流増加を引き起こし、脳幹を含む脳深部に作用する可能性を示した。

本発表では、屋久島の自然音に 40~100kHz の高周波成分を重畳した音源を用い、会場にて実際に体験してもらう。整体師としての身体評価を通じ、脳下垂体、視床下部、脳幹周辺に反応が現れた際の筋緊張および自律的反応の変化を実演・解説する。これにより、高周波音が身体機能に影響を及ぼしている可能性を、身体の変化として具体的に示すことを目的とする。さらに、ハイパーソニックサウンドが脳深部を癒すことでネガティブ思考を緩和し、それに伴い身体に現れる慢性的緊張が解放される可能性について考察する。心理的ストレスを起因とする身体不調に対し、心へのアプローチとしてハイパーソニックサウンドが有用なツールとなり得る展望を示す。

**キーワード:** ハイパーソニックサウンド, 音による調整, 脳深部影響, ネガティブ思考緩和, 心理的ストレス

---

連絡先: 佐藤 克巳 e7878n@gmail.com